

日事連全国大会（三重大会）開催報告

港支部（株）緒方建築事務所 川又 進

【お白石持行事とせんぐう館】

日事連全国大会（三重大会）第二日午前の特別行事「お白石持行事」に特別神領民として参加しました。

お世話いただいた三重会のみなさまに感謝申し上げます。

「お白石持行事」は一連の式年遷宮行事のうち最大の大衆参加行事で、今回は約 23 万人を動員する史上最大規模となったそうです。

我々にわか神領民の勤めはふたつでお白石を満載した奉曳車の綱に手を掛けておはらい町を陸曳（おかびき）することと内宮正殿敷地にお白石をひとつつ奉獻する事。

10 月のご神体遷御後は禁足地となる瑞垣（みずがき）内に無位無冠のわれわれが立入れるほぼ唯一の機会でした。造替となった正殿と東西の宝殿は檜の香をあたりに漂わせて立上がり、その神明造の威容を間近に仰ぎ見ると「かたじけなさに涙こぼるる」という心境です。

同日午後は伊勢市駅方面へまわって外宮参拝。第一鳥居際の勾玉池（まがたまいけ）に面する「せんぐう館」を見学しました。

同館は前日の全国大会で記念講演を行った栗生明氏が設計して昨年 3 月に竣工、翌 4 月に一般公開されています。手水舎裏の休憩所は建具をすべて開けはなった夏向き仕様で勾玉池をわたって来るそよ風が心地よい。はずでしたが、この日の日本列島は気温 40 度超えの観測地点もちらほら出る酷暑日とあって如何ともしがたく、池に浮かぶ奉納舞台をながめて視覚的な涼感を得るにとどまりました。

ここは式年遷宮という単一主題に的をしぼった資料館ですが、何とんでも外宮正殿東妻側部分 1/4 の原寸大模型の展示が圧倒的な迫力です。本館はこれを収めるために断面計画されたそうで、重厚な鋳鉄製大屋根の勾配も正殿と同じく矩勾配

(1/1) となっています。ほかの展示物や学芸員の説明も要領を得たもので、1300 年におよぶ式年遷宮が漫然としたコピーの繰返しではなかったことを教えてくれます。新技術の導入や職人たちの創意工夫の蓄積が今日の姿なのです。ここへは竹澤秀一氏著「伊勢神宮と天皇の謎」（文春新書）を読んで出かけると更に興味深く展示物を見ることができると思います。南北朝の頃まで正殿の屋根勾配は 4/3 と急峻だったろうとか、外宮社殿配置が古式と異なったまま明治 22 年の式年遷宮でも修正されなかったとか仰天記事が満載です。

